

竜ヶ崎南高等学校の震災被害状況

茨城県立竜ヶ崎南高等学校 川村 修

1. 当日の学校の状況

3月11日当日は、通常の授業日であったが、次年度の使用教室の大幅な変更のために6時限目に1年生105名と2年生100名、職員の指示で3階の教室から2階の教室へと机と椅子を運んでいる最中に地震が発生した。ほぼ移動が終わり教室で次の指示を待つ状態であったそのとき最大の揺れ（震度5強）が襲った。



2. 地震発生時の様子

3階で移動作業中の教員によると、に一瞬生徒が大騒ぎをしているのではないかと錯覚し注意しにいかうと思ったところ、大きな揺れがきて歩けない状態になり、その場にしゃがみ込んだ。そのまま生徒のいる、教室に行き、机の下に入るよう指示し揺れの収まるのを待った。しかし揺れは収まらず、待機の状態が続いたが、幸い片付けたばかりの教室だ

ったので生徒は整然とパニックになることもなく揺れが収まりのを待った。その後放送による指示があり中庭へ全生徒が避難した。避難を終えてすぐに茨城県沖の地震による揺れがきた。

（震度5弱）校舎が崩れる等の被害はなかったが、校舎や銅像などが大きく揺れ不安の隠せない生徒も多かったが、大勢でいることで意外に冷静にそのまま待機することができた。



3. 地震発生後の対応（待機・避難の様子、避難場所の様子）から生徒の下校まで。

どうしても荷物を取りに行く必要のある生徒のみ、教員とともに教室に行かせた。その後、生徒は帰宅方法が決まり次第確認して下校させることにした。自転車、徒歩は各自下校させ帰宅。その他は公共交通機関が使えないため、親が迎えに来次第順次下校させた。5時ころまでには全校生徒が帰宅した。職員も管理職を除き、7時頃までには順次帰宅した。



4. 校内の被害状況

龍ヶ崎市では震度5強と5弱であった。本校での校舎等への甚大な被害は無かったが、体育館の天井の破損や、校舎の壁等の一部破損、校舎内の各教室の備品等の落下による破

損があった。

5. 当日の学校周辺の状況

周辺では、家屋の屋根の崩れが目立った。また一部地区で停電、断水があり、電気は翌日。水道は給水車が1週間程度出動した。市内では、液状化による被害が多く、建物や道路等に大きな被害が出た。ガソリンスタンドに車列が並び、給油量の制限もあり3月いっぱいまでは正常な営業ができなかった。

6. 地震後、学校再開まで

生徒は翌週の月曜日に、安否確認のために登校させたが、(約60%の登校)龍ヶ崎市内の他の高校は全て休校であった。登校の困難な生徒が多いため、本校も翌日から休校とし、予定されていた追認考査は全て中止。3月22日に終業式を実施した。この日も登校の困難な生徒が20%近くいた。また、第2次募集、合格者説明会は予定通り実施することができた。新学期からは、通年通り実施し、始業式、入学式とも問題なく実施し、その後も普段通りの毎日に戻ることができた。

しかし、その後の調査で本校グラウンドで、高い放射線量を測定しその後もなかなか減少



しなかった。そのためグラウンドを使用を控えることが多くなった。放射線量の低下を待ったが、水はけの悪いことが影響してグラウンドの各所に周りから流れ込む雨水等が原因と思われる依然として高いままの状態が続いた。2年たった平成25年4月本格的な除染作業が行われグラウンド全面の表土10cmの撤去を行った。その結果放射線量は大幅に減少した。

7. 今回の地震について反省、改善すべき点等

帰宅できない生徒及び近隣からの避難者が全くなかったのも、当日大きな混乱はなかった。唯一放射線量の対策が学校側からなかなか打てず、2年もたってからの除染は残念であった。学校としてはその間グラウンドの使用が全くできず、グラウンドでの部活もなかなか活動が継続できず下火になってしまったことも残念であった。

